

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 066	提案機関名 小田原市経済部農政課
要望問題名 ウメ 着果安定、受粉率の向上の研究	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 毎年、梅の着果量が安定していないため、梅農家の収入が一定しない。梅の収量を一定にすること、また向上させることは小田原梅を栽培する農家にとって重要である。市としても梅の着果安定および受粉率の向上について研究をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>ウメの生産安定のためには受粉樹と訪花昆虫の確保が重要となりますが、小田原市の主要品種‘十郎’は開花期が早いことから受粉樹が少ない環境にあると考えられます。また、低温によるミツバチの活動不良も結実に影響を及ぼしていると考えられます。</p> <p>当所で育成した‘十郎小町’は‘十郎’と同様に開花期は早いものの、現地(小田原)での結実は安定しており、‘十郎’との交雑和合性もあることから、‘十郎’の受粉樹としても有効であると考えられます。また、‘虎子姫’は自家和合性の品種であるため、受粉樹や訪花昆虫が少ない環境でも結実が安定するものと考えられ、‘十郎’や‘南高’の受粉樹としても期待されます(平成24年度成果)。</p> <p>これら2品種は現地への導入が始まっていますが、実際に導入した場合の新品種の結実性や新品種導入による既存品種の結実率向上についてはまだ知見が不足しているため、今後現地調査を実施いたします。特に‘十郎’とほぼ同時期に開花する‘十郎小町’について、現地試験園としてジョイント仕立てによる混植園を設置し、両品種の着果安定性を調査するとともに、他品種との混植事例の収集と情報提供に努めます。</p>		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			